

氏名	荒木 美紗江
学位の種類	修士（鍼灸学）
学位記番号	鍼修第483号
学位授与の日付	令和6年3月12日
学位授与の要件	大学院規則第30条および学位規程第4条該当
学位論文題目	発達障害に対する鍼灸治療 -文献調査研究からみた鍼灸治療の検討-
指導教員	福田 文彦

## 学位論文の要旨

発達障害は近年注目され始めているが、児童思春期に適切な早期診断・治療がなされていないことから、二次障害につながるケースが多く、治療法としての薬物療法の副作用も報告されている。これらに対し、鍼治療が補完代替医療の一つとして期待されている。しかし、発達障害に対する鍼治療は、科学的根拠が少ないことから、推奨されていないのが現状である。そこで本研究では、発達障害に対する鍼灸治療の文献調査を行い、適応する発達障害の種類、症状、治療方法について検討した。

文献検索は、PubMed、コクランレビューを用いて、検索可能な時期から2022年8月までの期間で「acupuncture」と「Neurodevelopmental Disorders」の検索式にて実施した。

検索された論文は149件であったが、除外基準の論文を除き53件を対象とした。研究デザインでは、SR:5論文、レビュー:15論文、RCT:16論文、非RCT:3論文、観察研究:5論文、症例報告:2論文、動物実験:7論文であった。発達障害別では、ASD:31論文、ADHD:20論文、ADHD/ASD:2論文であったがSLDの論文は0論文であった。鍼治療の治療方法は、鍼治療、鍼通電治療、リハビリテーション+鍼治療の順で多く、部位は、四神聡、百会などの頭部の経穴が多く使用されていた。RCT論文の検討では、効果を認めた症状は、発達障害特性、QOL、成長発達度合であった。また、鍼治療は、リハビリテーションや薬物療法など補完医療としての役割を検討する論文が多かった。鍼の臨床試験を評価するSTRICTA2010では多くの項目が記載されていたが、CONSORT2010では多くの論文では記載不足であった。

以上のことから、発達障害に対する鍼治療の論文は鍼治療の効果が記載されていたが、論文数は少なく、研究の質も低かった。よって本研究の目的である適応する発達障害の種類、症状、治療方法は確立したものではない。今後は、質の高い臨床研究を行うこと、我が国の臨床研究を進めることが必要と考える。